

## 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部  
氏 名 豊福裕二

活動テーマ	遊休農地を活用した体験農園の開設による食育及び産消連携の推進
実施期間	平成23年 4月 1日 ~ 平成 24年 3月 31日
活動内容	<p>(1) 活動実施内容</p> <p>本事業は、人文学部法律経済学科の教員と津市渋見町の農家とが共同で実施するもので、渋見町内の遊休農地を活用して、主に近隣の保育園・幼稚園児が農業体験を行う体験農園を開設するものである。本事業の目的は、実際の農業体験を通じて保育園児や幼稚園児に日本の農業や食文化についての理解を深めてもらう(=食育)と同時に、園児と農家、さらには園児の保護者と農家との交流を図ることで、生産者と消費者との連携(産消連携)を促進することにある。</p> <p>今年度は、遊休農地のうち5畝(約500㎡)を整備した「渋見ふれあい農園」において、津市内の「さつき保育園」の園児と「安東幼稚園」の園児および保護者が農業体験を行った。作付けした品目はジャガイモ、サトイモ、サツマイモなどの芋類で、日常的な管理は渋見町の農家の方々が担当し、サツマイモの苗の植え付け体験と、ジャガイモ、サツマイモの収穫体験を園児および保護者が行った。収穫体験の際には、稲わらで焼き芋を作って園児・保護者、農家と一緒に食べるなど、相互の交流が図られた。</p> <p>(2) 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与、広がり)</p> <p>本取り組みは、遊休化していた農地を再活用する試みであり、地域資源の有効活用としてそれ自体大きな意義を持っている。また、体験農園は平成22年度に開設したものであるが、初年度の「さつき保育園」に加えて、本年度から「安東幼稚園」が加わったことにより、園児の保護者が収穫体験に参加するようになり、最大の目的である生産者と消費者との交流にも広がりが生まれている。</p> <p>さらにいえば、本取り組みは渋見自治会の「サロン事業」の一環としても行われており、体験農園の管理や収穫イベントは渋見町老人会のレクリエーションとして位置づけられている。体験農園での園児とのふれあいは、高齢者の健康増進や生きがいづくりという点でも意義を有するものである。</p> <p>現在、体験農園として整備しているのは5畝(約500㎡)にすぎないが、遊休化している農地は合わせて3反(約3000㎡)あるため、本取り組みが軌道に乗れば、将来的には、体験農園のみならず、園児の保護者や近隣住民との契約栽培・直売など、事業の広がりが期待できる。た</p>

だし、水利の便がよくないため、現時点では用水路に面した部分しか整備できていない。規模を拡げるためには水路の整備が不可欠である。

### (3) 共同実施者との連携状況

共同実施者である渋見自治会の生産者の方々とは定期的に話し合いの機会を設け、事業計画の策定に教員が関わるとともに、保育園・幼稚園との話し合いの場や、収穫イベントにも教員が随時参加するなど、緊密に連絡を取り合う関係を築いている。

### (4) 大学の教育・研究成果のかかわり

本事業は、人文学部社会動態研究センターにおいて 2008 年度から行っている研究プロジェクト「都市近郊団地における高齢者世帯の日常生活支援—産消連携による農産物直売システムの構築に関する研究」の成果をふまえたものである。同研究プロジェクトでは、都市近郊農地の有効活用と産消連携の推進をテーマに、津市渋見町の生産者と交流を深め、学習会等を実施してきた。当初は団地住民向けの直売システムの構築を意図していたが、生産者と消費者との交流の乏しさがネックとなっていた。本事業は、人文学部の教員と渋見町の生産者とが新たな産消連携の方策を話し合うなかで出されたアイデアを具体化したものである。

### (5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

\* 実施場所はいずれも「渋見ふれあい農園」

- 5月23日 サツマイモ苗植え（さつき保育園）：園児・先生約 40 名／生産者約 10 名
- 5月26日 サツマイモ苗植え（安東幼稚園）：園児・保護者・先生約 40 名／生産者約 10 名
- 6月14日 ジャガイモ掘り（安東幼稚園）：園児・保護者・先生約 40 名／生産者約 10 名
- 6月17日 ジャガイモ掘り（さつき保育園）：園児・先生約 40 名／生産者約 10 名
- 10月14日 サツマイモ掘り・焼き芋（安東幼稚園）：／園児・保護者・先生約 40 名／生産者約 20 名
- 10月24日 サツマイモ掘り・焼き芋（さつき保育園）：／園児・先生約 40 名／生産者約 20 名